



高大接続研究センター公開講演会  
高大を接続する  
－高校と大学の教師の役割－

## 高校と大学とが対話的・協調的に実施する 北米の大学入学者選抜

－アドミッションオフィサーとカレッジカウンセラー  
の職務の調査を通して－

2018.2.3(土)  
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授  
附属高大接続研究センター  
センター長 大谷 尚

## 今回のお話

- 米国大学のアドミッション部門の仕事
- 米国大学のアドミッションズオフィサー
  - － 背景
  - － 職務
  - － 専門的発達
  - － キャリア等
- 米国大学入学者選抜制度
- その背景となる米国学部教育
- NACAC(National Association for College Admission Counseling)
- 高校側カレッジカウンセラー
- インデペンデント・カウンセラー
- 日本の課題

## 入学生選抜の専門職養成、大阪大学の研修に希望者殺到

大学ジャーナルオンライン編集部

アドミッションオフィサー 入試改革 大学運営 大阪大学

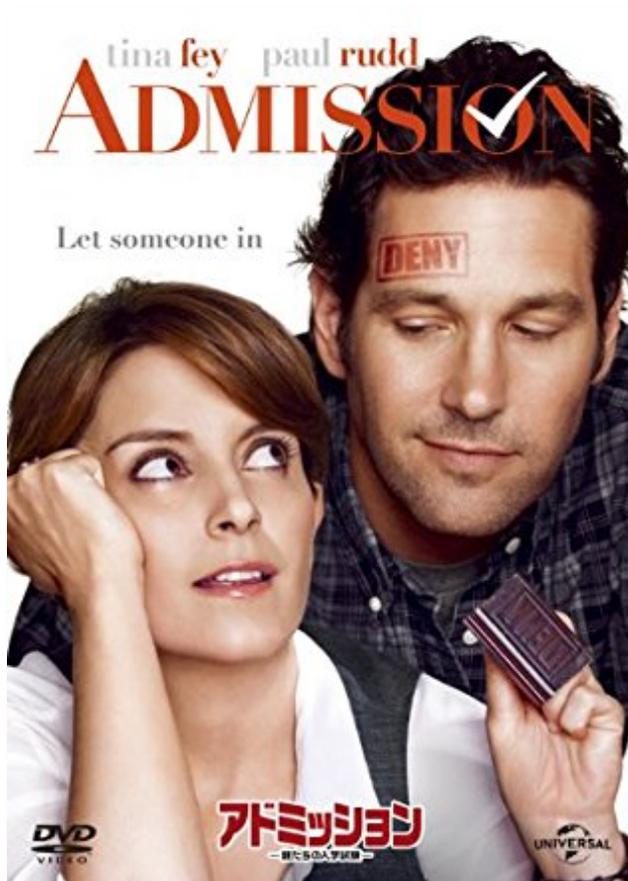
41 f 596 B! 9

大阪大学高等教育・入試研究開発センターは8月23日から3日間、大阪府吹田市の大阪大学吹田キャンパス銀杏会館で入学生選抜の専門職を養成する研修会を開く。大学入試改革で受験生を多面的に総合評価する選抜方法への移行が求められているのを受け、企画されたが、全国から受講希望者が殺到している。

大阪大学によると、この研修は「阪大アドミッションオフィサー養成プログラム」。募集人員40人で、入試に携わっている大学の教職員や大学院生らを対象とする。プログラムの参加費は無料。

講師は川嶋太津夫大阪大学教授、林篤裕名古屋工業大学教授、大塚雄作大学入試センター試験・研究統括官らが務め、多面的入試制度導入の背景、模擬面接での評価方法、受験生の意欲を押し量る入試の設計などについて講義を受ける。最終日にはグループ演習が予定され、全プログラムを受講すると修了書が交付される。国が入試改革を進めている時期だけに、募集開始とともに受講希望者が殺到、応募定員を上待ってキャンセル待ちになっている。

日本の大学入試は教員が採点しているが、米国ではアドミッションオフィサーと呼ばれる専門の職員が受験生を多面的に評価して合否を決定することが多い。アドミッションオフィサーは年間を通じて生徒の学業成績や校内外の活動実績に関する情報収集を続けるなど入試業務に専念している。



## アドミッション オフィサーの職 務のイメージ

3月の調査で

「アドミッションズオフィサーについてはこの映画を通じた知識とイメージくらいしかないのです(;\_;)」

と言うと

「ああ、基本的にあの映画の通りですよ(^\_^)」

との答え。

# アドミッションズ・オフィサーとは

- 米国の大学のアドミッション（入学者選抜）部門に所属し入学者選抜業務（合否判定も）を行う非教員 non-academicの専門職員
  - 「アドミッションズ・カウンセラー」などいくつかの呼び方がある.
  - 呼び方調べ. . .



## 日本語でgoogle すると

(“・”の有無は結果に影響しない)

- “アドミッションオフィサー”  
– 約 1,630 件
- “アドミッションカウンセラー”  
– 約 478 件
- “アドミッションズズオフィサー”  
– 約 148 件
- “アドミッションズズカウンセラー”  
– 10 件

## 英語で google すると

- "admissions counselor"  
– 約 1,010,000 件
- "admissions officer"  
– 約 847,000 件
- "admission counselor"  
– 約 308,000 件
- "admission officer"  
– 約 151,000 件

## 日本語と英語を比較すると

日本語

英 語

- 
- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. ズ無しオフィサー  | 1. ズ有りカウンセラー |
| 2. ズ無しカウンセラー | 2. ズ有りオフィサー  |
| 3. ズ有りオフィサー  | 3. ズ無しカウンセラー |
| 4. ズ有りカウンセラー | 4. ズ無しオフィサー  |

# 高大接続改革文書での 「アドミッション・オフィサー」の登場は？

- × 中教審答申 2014.12.22
  - アドミッション・オフィスの強化をはじめとする入学者選抜実施体制の整備
- × 高大接続改革実行プラン 2015.1.16
  - 各大学におけるアドミッション・オフィスの整備・強化や・・・
- ○ 高大接続システム改革会議「中間まとめ」2015.9.15
  - 各大学において多面的・総合的評価による入学者選抜を推進していくためには、入学者選抜実施体制の充実・強化は不可欠であり、アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど多面的・総合的評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置が急務である。
- ○ 高大接続システム改革会議最終報告 2016.3.31
  - 以上のような個別大学における入学者選抜改革を推進するため、各大学において、アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど多面的・総合的評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要である。
- ○ 平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告2017.7.18
  - 個別大学における入学者選抜改革を推進するため、各大学において、アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど、多面的・総合的評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要となる。そのため、文部科学省として、引き続き効果的な財政支援等を通じ、各大学の入学者選抜改革を促進する。

## 3月の調査について

- 期 間
  - 2017.3.13-17
- 調査対象校 マサチューセッツの4大学
  - マサチューセッツ大学アマースト校 UMass Amherst
    - 州立総合大学として
  - MIT: Massachusetts Institute of Technology
    - 選抜性の最高ランクの大学として
  - Amherst College
    - リベラルアーツカレッジ全米ランキング第2位の大学として
  - Hampshire College
    - SAT, ACT、高校時代のGPAを選抜で全く考慮せず、大学でもGPAを使わない大学として
- 調査内容
  - アドミッション部門の活動と機能
  - アドミッションズオフィサーの
    - academic background
    - 職務と勤務形態
    - 備えるべきスキル
    - Staff Development の機会等

## アドミッション部門の業務と アドミッションズ・オフィサーの職務

- 人数
  - Hampshire 9名, Amherst College 15名、UMassとMIT 20名
- 1人が100以上の高校を担当し、1,000通くらの出願書類を審査
- ひとりの出願者に対して必ず複数で審査
- 私立大学が学生獲得にかかるコストは、入学者一人当たり約2500ドル
- 入学後の学生の調査→選抜基準にフィードバック

## 米国の高校生の大学進学準備の年間計画

- 高2
  - 1～2月：進路の検討
  - 2～3月：キャンパス訪問
  - 3～4月：大学選び
  - 4～6月：テスト対策
  - 5～6月：推薦状の準備
  - 6～8月：エッセイの準備
- 高3
  - 8～9月：受験校の決定
  - 9～10月：Early Admission 出願
  - 11～12月：Regular Admission 出願
  - 3～4月：合否通知を受け取る、合格者のための会合等に参加して進学先を決断する
  - 5月1日：入学手続き

# 出願の時期と種類

## 入学試験は無いので 出願=受験

- Early Admission
  - Early Decision (ED) 合格すれば入学義務あり
    - 出願締切
      - 10/15 か 11/1
    - 合否通知
      - 12/15 (日本なら 7/15!)
  - Early Action (EA) 合格しても入学義務なし
    - 出願締め切り
      - 10/15 か 11/1
    - 合否通知
      - 12/15 (日本なら 7/15!)
- Regular Admission (RA) 合格しても入学義務なし
  - 出願受付
    - 12月-2月に締め切り
  - 合否通知
    - 3月-4月 (日本なら 10-11月!)

## 日本よりかなり早期に決まること

- Early Admission が日本の 12/15 に出る
- 日本は早すぎる推薦合格を高校が嫌う。
  - 「受験は団体戦」
    - 基本推薦無し！ 戦線離脱するな！ 敵前逃亡するな！
  - しかし全体主義的な受験体制を敷かず、しかも「受験」がない米国では問題にならない。
- Regular Admission による進学も日本の 12/1 には入学手続き。
  - たしかに米国は学年の間に2ヶ月の夏休みがあるので同じに考えることはできない。
  - しかし合格しても大学進学のための主体的な勉強を続ける体勢ができていれば日本でも、もっと早期に決定しても問題にならないはず。

# アドミッションズオフィサーの年間行事

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6-7月
高校へ出張計画作成	高校へ出張 協会の会議に参加		早期出願等の出願書類の審査	通常の出願書類受付・審査	合格発表	合格者向けのイベントやレセプションの開催	五月一日・入学手続きの締め切り	残務処理など？ 長期休暇？		

## ROAD WARRIORS: RESULTS OF A NATIONWIDE SURVEY OF ADMISSION COUNSELORS

### アドミッションオフィサーについての「路上の戦士たち」 という発表

244名のアドミッションズ・オフィサーへのアンケート調査結果



- 66.2% が1日9時間から12時間働き、
- 20.9% は1日12時間以上働いている。
- 44.7% が勤務大学から半径500マイル（800km）以上の場所まで高校訪問に出かけ、  
- 日本に置き換えれば名古屋から盛岡あるいは佐賀までの距離
- 60.4% が昼食時に高校を訪問。
- 53.1% が1日平均4つの高校を訪問し、
- 38.6% がひとつの年度に20以上のカレッジフェア（自大学の宣伝のためのイベント）に参加。
- 37.1% がホテルに26泊から50泊しており、
- 38.8% がヒルトン、36.6% がマリオット、24.6% がその他のホテルを好み、
- 71.3% が運転中の食事のための駐車場所として頻繁にスターバックスを使用。
- 85.1% がネットワーク形成のための専門職的コンファレンスに出席しており、
- 90.2% が高校生とのやりとりこそが自分の仕事で最も報われるものだと感じている。

# 必要な能力・資質

- 生徒や高校側カレッジカウンセラーと対話するコミュニケーション能力
- 出願書類（エッセイを含む）を読んで出願者の特徴を把握する読解力、推論能力
- GPAなどの再計算のための数学的能力
- 情報統合力
- 教育への情熱
- 当たり前であるし自分たちについてなので名言されなかったが「大学の顔となる好印象を呈示できること」が必要
  - インタビュー相手はいずれも明るくユーモアのセンスがあって配慮に満ちており、アメリカ人を代表するような好人物だった。
- なお、自大学出身者は、選抜よりも出願者募集のプロセスで力を発揮する。
  - 選抜性の高い大学＝選抜が重要
  - 選抜性の低い大学（ブランド力の低い大学）＝出願者募集が重要

# 専門的発達 professional developmentの機会

- 多くは、OJT (On the Job Training)
  - 大学ごとによく練られた業務マニュアルがあり、まずそれから学ぶ
  - 2人1組で仕事を開始して教わる大学も
- 協会等への参加
  - NACAC
    - 全米のNational Association for College Admission Counseling
    - 州毎の \*\*ACAC, NEACAC, etc.
    - 国際の International ACAC
  - AACRAO
    - American Association of Collegiate Registrars and Admission Officers
  - College Board Forum
  - CIS(the Council of International School )Forum
  - Education USA Forum
- e-learning
- Webinar (WEB上のセミナー、オンラインセミナー)

# キャリア

- 学生時代にインターンシップやボランティアで自大学のアドミッションの手伝い（キャンパスツアーガイド、出願者・出願希望者との面接等）をした人が多い。
  - 若くて熱心な自大学卒業生を採用すれば、彼らを何百もの高校へ送り込み、自分の体験を高校生に語らせることができるので、その大学の出願者募集において多くの利点がある。(MITでのインタビューから)
- ただし旅行がきわめて多いので、家族を持つとこの仕事は続けにくい。
- 休職または退職して高等教育などの修士号を取得し、転職する人も多い。
- 高校側のカレッジカウンセラーになる人もいる。
  - 経験を生かすことができ、かつ旅行しないですむ。

## アドミッション部門に求められるもの

- アドミッションオフィサーの多様性
  - 考え方、視点、経験、民族（文化）、人種など
- 問題のある学生についての他部署からの否定的報告の検討
- IRからの全体的報告の検討
- 以上に基づく3-5年ごとの質的評価枠組みとルーブリック（入学選抜者規準）の見直し
- MITの場合
  - MITは合格にする生徒の書類はほぼ全て(20人)が見ている。最初に選考からはずれた応募者は1-2人しか読んでいない。つまり合格に近くなるほど多くが読む。
  - MITはアドミッション部門には、2名のIRの専門家がいる。

# 奨学金とセットで合格を出すことも多い

- 奨学金部門とアドミッション部門がひとつになっている大学も多い
- 奨学金は多様
  - 授与
    - full scholarship 授業料全学免除
    - half scholarship 授業料半額免除
  - 貸与
    - 多様
- 授業料はUMass で1年 200万円. Amherst College で540万円. なかには 580万円(Columbia U) も!
- 全米最低がブリガムヤング大の 55万円 (最低で日本の国立と同じ)
- 高校生は、自分の志望とオファーされた奨学金とを勘案して入学先を決める.
- 当然の疑問
  - そんなに授業料を免除したら大学の収入がなくなるのでは?
  - そうか! その分、他の学生の授業料を高くしているのか! だから授業料が高いのか!
  - ちがいます.

## 米国大学基金上位10校

• Harvard University (MA)	\$35,665,743,000	2
• Yale University (CT)	\$25,413,149,000	3
• Stanford University (CA)	\$22,398,130,000	5(tie)
• Princeton University (NJ)	\$21,703,500,500	1
• MIT(MA)	\$13,181,515,000	5(tie)
• University of Pennsylvania	\$10,715,364,000	8
• Texas A&M University-College Station	\$ 9,858,672,136	69(tie)
• University of Michigan-Ann Arbor	\$ 9,600,640,000	28
• Columbia University (NY)	\$ 9,041,027,000	5(tie)
• University of Notre Dame (IN)	\$ 8,748,266,000	18(tie)

Sept. 28, 2017

<https://www.usnews.com/education/best-colleges/the-short-list-college/articles/2017-09-28/10-universities-with-the-biggest-endowments>

- ハーバードは、3.5兆円! 州立のテキサスA&Mやミシガン大学でも約1兆円!
- 慶応大学は 481億円、早稲田大学は 274億円、東大は100億円 つまり米国大学と2桁違う.
- 名大は 34億円. つまりハーバードとはちょうど3桁違う.
- ハーバードは基金の運用で年間 15% = 5.250 億円の収益
- 名大(学生数16,500)は基金はハーバード(学生数 22,000)の1年分の基金収益の1/15しかない.

## 入学率(yield 収穫率・歩留まり)

- 合格通知後の4月1ヶ月間が Yield month
- 関心度（ボーダーでは重要）、願書提出前の自発的な接触、キャンパス訪問、メール、資料請求、キャンパスツアー、FaceBookを通じた大学へのアクセスを評価して手続きしそうな学生にアドミッションを出してyieldを上げる。
  - キャンパス訪問をしない生徒の入学率は低い。
- アドミッションオフィサーとの間の信頼と心証形成が影響する

## 2016のyieldの高い大学10校

Universities, Colleges Where Students Are Eager to Enroll から作成  
<https://www.usnews.com/education/best-colleges/articles/2018-01-23/universities-colleges-where-students-are-eager-to-enroll?int=highereducation-rec>

大学(州)	合格者数	入学者数 2016	入学率
<a href="#">Stanford University (CA)</a>	2,118	1,739	82.1%
<a href="#">Brigham Young University—Provo (UT)</a>	6,520	5,246	80.5%
<a href="#">Harvard University (MA)</a>	2,110	1,663	78.8%
<a href="#">Massachusetts Institute of Technology</a>	1,511	1,110	73.5%
<a href="#">Yale University (CT)</a>	1,988	1,371	69.0%
<a href="#">University of Texas—Rio Grande Valley</a>	5,763	3,944	68.4%
<a href="#">Princeton University (NJ)</a>	1,911	1,306	68.3%
<a href="#">University of Pennsylvania</a>	3,674	2,491	67.8%
<a href="#">University of Alaska—Fairbanks</a>	1,144	775	67.7%
<a href="#">University of Chicago</a>	2,499	1,591	63.7%

## 米国の大学

### —学部教育の日本と異なる背景—

- 米国の大学は、英国風のcollege制度と、米国の新しいschool制度が併存。
- 一部のschool系学部（音楽学部、体育学部など）を除いては、新入生をFaculty of Arts and Science（文理学部）で入学時に専門を問わずに入学者選抜をして、まるっと合格させる。
  - 入学時に専攻Majorを決める必要がない。
  - 専攻は途中で変えられる。
  - 複数の専攻を取ることもできる Double Major他
  - 多くはその専攻に進むための背景を問われない
    - まったくピアノを弾いたことがなくても音楽を専攻できる。
    - ただし、入学願書にあらかじめ志望専攻領域を書かせるケースもあるし、2年次までの成績が悪ければ志望専攻に進めないケースもある。

## 米国の大学

### —学部段階での幅広い教養の尊重—

- 日本だと理系、文系が高校から分かれ大学も学部・学科で受験する。
- 米国のFaculty of Arts & Scienceでは専門は入学後に決めれば良いし主専攻と副専攻で文と理、理と文を取ることもできる。
- 教員にとって、入学時には自分の専攻に入ってくる学生が決まっていない。そのためその学生の合否判定をしたいと思わないし、その責任も無いし、それができない。

# 米国の大学

## —進級・卒業評価—

- 9～12月の秋学期、1～5月の春学期、それぞれ16週間2学期の「セメスター制」
- それぞれの学期が独立しているため短期決戦
- 8週間ごとに中間テスト・期末テストがあり、多量のレポートを提出
- 2学期続けて GPAが2.0 (平均70点) を切る (平均C) と退学
- 日本の大学と異なり入学してからの勉強量の多さとディスカッション中心のクラスの厳しさは大変。
- したがって入学後に勉学について来られるかどうかで入学者選抜をする。
- 学生は宿題や予習 reading assignment 等、復習が大量にあり、勉強に集中するためにも、寮生活を送る。
- しかもGPAが重要
  - (Shopping 期間を除き) いったん受講しはじめたら取り消すことができない。その科目を捨てれば0点が付くためGPAが下がってしまい捨てることはできない。日本でも筑波大学はこのやり方。(米国でも例外はある。)
- つまり、総合的な基礎学力と応用力と意欲と学習スキルのある学生を入学させ、やりたい専攻をやらせて、厳しい評価を行って自己責任でどしどし勉強させるのが米国大学の学部教育

# 米国の大学

## —専門は大学院で—

- 米国の大学では、専門は大学院で学ぶと考えられている。
- アメリカの大学は高校レベル？
  - 日本が週5日制になる前の高校までの1年間の授業日数は日本が254日で米国が180日
  - 土曜の半日などを考慮すると授業時間の比は4:3
  - つまり米国では高校卒業までに日本より  $\frac{1}{4} \times 12$ 年間 = 3年間少なく勉強している。
  - その結果、授業時間で見れば、米国の高校卒業生は 日本の中学卒業生と同じ。
  - こう考えれば、米国で高校卒業時に医師や法律家になることを決めるのは早すぎるのは当然
    - 医学、歯学、薬学、法学、経営学、図書館学、社会福祉学、は米国ではすべて学部卒業後の専門職大学院

# 米国の大学

## –人生における学部の意味と機能–

- フランスでは中学で将来を考え、高校で3種のバカロレア（理・経済社会・文）から選ぶ
- それに対して米国人は高校卒業までは「子ども」
- 大学では前述のように寮生活を送るため、家を出て親離れするための所属組織でもある
- 「人生に迷ったら大学に戻る」と言われる。
- つまり大学期とは、キャリアを考え、キャリア形成を行うための学習期間
- だから専門を大学入学前には決めない。

## アドミッションオフィサーの主観性は問題にならないか？



- アメリカの入学者選抜は最終的には「買い手市場」である。
- それゆえインターネット上には、ありとあらゆる流言飛語が。
  - 「テキサスを訪問したアドミッションオフィサーが、テキサスチキンウィングスがあまりに辛くて大変な目にあつたため、テキサスの高校からは合格させないようにしたいらしい」等
  - 上記の映画も、女性アドミッションオフィサーが、ある高校生を自分が独身時代に妊娠出産して里子に出した子と思い、意図的に合格させようとする。
- これらもアドミッションがアドミッションオフィサーの恣意性に左右されるのではないかという疑念から生じていると推測できる。
- しかし実際には、恣意性ができるだけ機能しないような仕組みが工夫されている。
  - 評価のためのルーブリックがある。
  - 1人の出願者を複数のアドミッションオフィサーがチェックするなど
- 上の映画の女性も結局そのことに失敗して職を失う。

## 歩留まりは見込み違いしないのか？

### UCアーバインの入学取り消し問題

- UCアーバインが、17年の秋に入学を希望する学生から受けた出願は10万4000件
  - これは、UCLAとUCサンディエゴに次いで全米で3番目に多い
- 入学目標は6,250人で歩留まりを20%と予想し3万1000人に合格通知を送った。
- しかし7,130人歩留まり23%) が入学手続き！
- これでは寮、授業、教員、教室などが足りなくなる。
- そのため 500人を後から不合格に. . .
- 後にこれは撤回される。

[http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel\\_admission\\_ucirvine.html](http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel_admission_ucirvine.html)

## 歩留まりは見込み違いしないのか？

### サウスカロライナ大学の対応

- サウスカロライナ大学も、2017秋に入学する学生数が当初予定した5,300人を大幅に上回り6,000人を超えた。
  - 歩留まりを3%程度低く見積もってしまった。
- サウスカロライナ大学の場合はバスケットボール効果だと言われる。
  - 2017年3月の男子バスケットボール決勝トーナメントで、サウスカロライナ大学の男子チームがファイナルフォー(準決勝)に進出し、女子チームは優勝。
- ただしサウスカロライナ大学は入学を取り消さず、学内できちんと対処することを宣言。
  - 近隣のアパートを借り上げてスタッフを配置し学生寮として使う。
  - 1年生が履修する可能性の高いクラスを増やすために、教員採用に奔走した。

[http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel\\_admission\\_ucirvine.html](http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel_admission_ucirvine.html)

# 歩留まりは見込み違いしないのか？ ウェイトリスト（補欠リスト）

- このような“オーバーエンロールメント”を避けるため、多くの大学はウェイトリストを活用。
  - ウェイトリストとは欠員補充のための“補欠学生リスト”
- 大学はあえて少なめに合格通知を送り、その他のボーダーラインの学生をウェイトリストに掲載。
- 5月1日以降、定員に達するまでウェイトリストから学生を繰り上げ合格させる。
  - 例えば、ワシントンDCでは、定員を上回る人数を入学させることが禁止されている。
  - ジョージ・ワシントン大学は、毎年1,000人超を繰り上げ合格にしている。
- [http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel\\_admission\\_ucirvine.html](http://www.us-lighthouse.com/study/education/cancel_admission_ucirvine.html)

## 9月の調査について



- 期 間
  - 2017.9.14-16
- 調査対象会合 NACAC National Conference 2017 @ BOSTON
  - National Conference for College Admission Counselingの年次総会
  - 7,000人の参加者（今年は Boston だったので最大規模）
    - 大学側のアドミッション・オフィサー 約4割
    - 高校側のカレッジ・カウンセラー 約4割
    - 独立 (independent) カウンセラー 約2割（個人または企業）
- 調査内容
  - Conference の内容
  - アクセスしにくい高校側のカレッジカウンセラーの情報
  - カレッジカウンセラーとアドミッションカウンセラーの協調

# NACAC conference

## 全体を貫く雰囲気



- 全体会の際のNACAC会長講演
  - Nancy T. Beane
    - Associate Director of College Counseling, The Westminster Schools (GA)
  - 「大学側のアドミッションズ・カウンセラーと高校側のカレッジ・カウンセラーとは、敵対したり利害対立したりする関係ではなく、生徒のためにより豊かで適切な選択が行われるようにお互いに協働する関係である。」
  - その点で、親和的で協調的、かつお互いを鼓舞するような温かで元気な雰囲気に満ちたconferenceであると感じた。
- 1人のアドミッションオフィサーが100人以上のカレッジカウンセラーを知っているので会場のあちこちでハグの嵐！

# NACAC conference

## 一般セッションのトピック



- アドミッションのための面接のあり方
- 出願者の文化的多様性への対応
- アドミッションに活用するテクノロジー
- 出願者のテクノロジーの活用
- ソーシャルメディアの活用
- 合格者への大学進学のためのカレッジフェアの開催方法
- ホームスクーリング
- 将来のアドミッションズ・カウンセラーに求められるもの
- オーストラリアの大学への進学
- アジアの大学への進学
- 英国の大学への進学
- 学習障害を持つ生徒のアドミッション
- 新入生が大学コミュニティに溶け込むためのサポート



# NACAC conference

## 教育セッションのトピック



- メディアを活用したアドミッション
- トランスジェンダーの生徒とジェンダーの確定しない生徒へのアドミッションの際の手続き等の配慮
- 留学生の獲得
- 低所得の学生への対応
- イスラムの生徒への対応
- アドミッションの100年の改革
- 他校への転学
- 出願のためのエッセイの書き方
- ホリスティック・アドミッション
  - この概念については後述



# NACAC conference

## SIG (Special Interest Group)



- performing arts
- 視覚芸術
- 退職者
- アフリカ系アメリカ人
- コミュニティカレッジとトランスファー
- 独立カウンセラー
- 国際バカロレア
- 私立高校
- 女子大
- 若いアドミッション部門責任者
- (その家族で) 初めての大学入学者世代となる出願者について
- 高校のカレッジ・カウンセラーの資格
- 公立校
- カトリック校
- 他



# アドミッションの新しい動向

## ホリスティック(Holistic) アドミッション



- 敢えて訳せば「全体論的入学者選抜」
  - 関連する語として、Holistic Review (全体観的評価)
- 分かりやすくいえば、**全人的評価**
  - **holistic medicine** は**全人的医療**と訳す
- SATのような標準化テストによって測定した出願者の学力だけでなく、それ以外のたくさんの面を見て1人の出願者をトータルに評価
- ただし沢山の評価項目の点数を合計するだけでは真にホリスティックとは言えず、さらに積極的にその出願者の全体像を見ようとするもの
- 現在のトレンドであり米国のアドミッションは多かれ少なかれこの傾向がある。
  - 選抜性の高い大学ほどそれが強くなっている。
- 多項目の総合点で評価するより
  - 信頼性は低くなるが高い妥当性を狙う (欲しい生徒を取る！)
  - 客観性は低くなり主観性あるいは評価者の主体性が高くなる評価方法
- そのため最終日には「ホリスティックアドミッション、味方が敵か？」というセッションも

# アドミッションの新しい動向

## ターニング・ザ・タイド(Turning the Tide)



- 「潮流を変える」の意
- Harvard Graduate School of Educationのプロジェクト MAKING CARING COMMON から派生した探索的なプロジェクトが2016年1月20日に発表した報告書の名前
- 大学入学者選抜のプロセスを次の3つの領域で再形成しようと提案する。
  1. 他者、共同体奉仕、公共善へのより有意義な貢献を促進すること。
  2. 出願者による他者への倫理的な関与と貢献を、人種、文化、社会階層を背景とする多様な方法で評価すること。
  3. 経済的に多様な生徒のための公平な土俵を用意し、過度の達成圧力を減じるような方法で成果・学力 (achievement) の再定義をすること。
- 2016年9月からの大学入学者選抜にはすでに影響を与え、2017年の選抜がその2年目
- ただし今回の会では、この名を冠したセッションはなく、このことばがしばしば発表者の発表内容に登場する程度であったため、具体的な影響はまだ少ないと考えられる。
- しかしこの語への言及頻度が高かったことから、これがじょじょに大きな影響を持っていくことは想像に難くない。
- なお、この概念や報告書を解説するWEBページは、日本語のものはわずか2つしかなく、しかも一方が他方の情報源である。それに対して、中国語のページは無数にあり、中国が米国の大学入学者選抜に非常に高い関心を持っており、日本はまったくそうではないということが象徴的に表れている。

# 独立カレッジ・カウンセラー Independent College Admission Counselor



- 今回の参加者の2割はこれ
- プライベート・カウンセラーとも呼ばれる。
- 大学にも高校にも属さず、独立して、家庭からの依頼で契約をし大学選択や大学出願をサポートする職業。
  - 前述のHOBSONS 社のような企業
  - フリーランスの個人



## 個人についてかれらのページを参考に記述すると

- 多くは過去に大学側のアドミッションズ・カウンセラーか高校側のカレッジ・カウンセラーを経験して退職した女性で母親。
- セッション毎の契約あるいは出願全体のパッケージ契約
- メリット
  - 高校のカレッジカウンセラーが1年度に何百人もの生徒の面倒をみるのに対して、独立カウンセラーは1年に数人の生徒を見るためきめ細かく対応。
  - 得意分野があり、音楽、美術などの進学にはより多くの情報提供ができる。
  - 大学選択と出願に伴う親子の緊張・対立関係の間に緩衝材のように入ってそれを和らげる働きもする。
- しないこと
  - 「大学とのコネを使って仕事をするものではない」と名言。
  - 「出願の際のエッセイを生徒に代わって書いたりはしない」と宣言。
    - それは非倫理的であるし、大学側のアドミッションズ・カウンセラーはSATの記述式テストの結果をダウンロードして出願時のエッセイと突き合わせるの、そのようなことをすればすぐに大人の手が入ったと分かる。
  - 中には特別に成果を上げて高収入を得ている人がいることを否定していないが、ほとんどは少ない収入でむしろ生徒のために働き、しかるべき生活をする人たちであると説明
- 専門職団体を形成しその1つがHECA(The Higher Education Consultants Association) .
- 契約の際には、NACACのような会合に参加してprofessional development をしているかどうかひとつの規準となると説明。

<注釈・訂正>

「名言」の誤変換です。

## NACAC Conference から日本の 高大接続改革のために学ぶべきこと



- 大学側、高校側、独立の、立場の異なるカウンセラーたちが、日常的に対話を重ねながら、7,000人規模の会合で情報交換と経験交流を行って、生徒のためによりすぐれた仕事をしようとする姿勢
  - 日本の「全国大学入学社選抜研究連絡協議会（入選協）」は3日のうち1日目半日だけ高校・教委を参加させ2日目と3日目はなんと高校をシャットアウト！
  - あたかも生産者たちを閉め出して行うバイヤー達の秘密会合のよう。
  - これで良いはずがない。
- 米国の大学入学者選抜制度は、このような人々のこのような努力によってこそ支えられている。

## 3月の調査と9月の調査から



## 日本と異なる点

### 学習者集団（学年）全体のデザインをする

- 学年全体の多様性等を考慮した意図的なデザインに基づく選抜
  - 日本の客観性最重視の一点刻みの合否判定では全く不可能



## 日本と異なる点

### 共通テストを使用するかしないかこそ アドミッションポリシー

- 選抜性の高い大学で、共通テストの弊害を認識し、test optional とするケースが増えている。
  - このような大学では、出願者の学力はきわめて高いので、共通テストで学力を評価する必要はない。
  - 高校によるGPAの差はカリキュラムの強さに基づいて大学側で調整できる。
  - だったら弊害を排除しようとする。
- 統一テストを必須とすることの基礎と意義を常に問いかけ、再評価することが重要。  
NACAC(2008)、松井(2009)より。

# 日本と異なる点

## アドミッションオフィサーが評価しないもの

- 意図的・技術的に形成されたテスト受験学力
- (2)テストの準備とテスト情報へのアクセスで、高校生の間には格差があることを理解し、考慮に入れよ。
- 研究では、SATの旧1600点スケールで、20~30点は受験のための準備によって得点される傾向が知られている。テストの準備として最終的には基礎的な知識と能力が重要ではあるが、質問形式、試験の実施方法や、また学生の学習上のスキル、アチーブメント、そしてテストとの慣れ、などの要因が点数にどのように影響するのか、しっかりと調査し、情報を得て共有し、評価する必要がある。
- 日本の高校は3年かけて（中高一貫校では6年かけて）この「テストの準備」つまり受験学力形成を行っている。
- そしてそれを大学も評価している。
- したがって、23-30/1600ではなく、もっと多くの、評価すべきでないものにもとづいて入学者選抜を行っている。

# 日本と異なる点

## 出願者の人物像を隠してしまわない

- 受験番号だけに匿名化した合否判定は出願者の人物的特性をマスク（隠）してしまう。
- いくら特性の諸項目を点数化してそれを合計しても、人物像は見えなくなる。
  - 質を量に還元するやりかたの限界
- 米国の入学者選抜は、匿名化せず人物像をマスクしない
  - むしろ質全体の評価の中に量的指標を取り込もうとしている

# 日本と異なる点

## 対話的・協調的なプロセスである

- 日本では、高校は調査書を書くが、一般入試なら大学はそれを全く見ていないことも多い。
  - 高校側
    - せっかく一生懸命書いたのだからちゃんと見て欲しい！
  - 大学側
    - そんな仲人口みたいなものを見ても意味がない。
- これでは騙し合い、裏切り合いの入学者選抜
- そこには対話や信頼があるとはいえない
- 米国の入学者選抜は両者が次の点で一致点を見いだすことに努める対話的・協調的プロセス
  - ひとりひとりの生徒に適した進学先を選び入学させたい高校側
  - 自分の大学に適した生徒を入学させたい大学側

# 日本と異なる点

## 最後の最後まで高校との対話は続く

「コミッティ」と呼ばれる合否の最終判定会議でボーダーラインにいる生徒の合否を判定するため、アドミッションカウンセラーがカレッジカウンセラーに追加情報を問い合わせることもある。

その際、「第一志望かどうか」「学業成績が落ち込んだ理由」などの質問から、時には「心の病から立ち直っているか」「麻薬常習から本当に更生しているか」といったことまで聞く。一方、カレッジカウンセラーからは「合格できる見込み」「第一志望であれば合格するのか」「合格させるために必要な追加資料は何か」などの問い合わせが来る。

こうしたやりとりを頻繁にカレッジカウンセラーとできるようになるためには、個人的な信頼関係が必要で、誰とでもできるわけではなく、少しずつ積み上げていくものでもあるようだ。(後藤(2005))

## 日本と異なる点

### さらにもっと低学年から時間をかけて評価

- Coalition Application 2016-
- 9年生（日本の中3）からアカウントを作成して容量制限のないオンラインのストレージ The Locker というハイスクールポートフォリオに学習成果や活動成果を蓄積する。
- Coalition Space に大学のアドミッション担当者等を招待して対話を行い指導を受けられる。
- 大学は時間をかけて生徒を評価できる。
  - 「より長い線」で評価
- さらに、低所得・低学歴の家庭など、環境によって能力を伸ばせないでいる潜在的な優秀生徒に介入することで進学支援を行う。

## 日本型アドミッション・オフィサーは成立するか

- 「米国の学部教育自体が日本と大きく異なるので、日本の学部教育を変えない限り、米国型のアドミッションとアドミッション・オフィサーは日本では全く機能しない」と良くいわれる。
- しかし本当にそうだろうか？

# これに近い入学者選抜は日本に無いか

- ある。
- 長い間続く、しかもある程度大きな高校集団から採る指定校群からの推薦制度
  - 例：カトリック系大学へのカトリック校からの指定校推薦入学
- 高校生活全体を見て、成績だけにとらわれず、部活や課外活動などを総合する評価によって高校が推薦し、大学が合否判定する。
- 高校生も受験学力育成にとらわれず、のびのびと高校生活あるいは中高一貫校生活を送ることができる。
- また、比較的早期に決まるので、その後ものびのびと勉強できる。
  - 合格が決まったら遊んでしまうような生徒は推薦しない。
- これはほとんど研究されていないが、これが有効に機能している面は多くあるように思われる。
- 大学側でこれに従事しているのはまさにアドミッションオフィサーではないのか. . .
- 要研究！

# これに近い入学者選抜は日本には無いか

- さらにもうひとつある (あった)
  - こちらこそ米国の大学入学者選抜に近い
- 「九州大学21世紀プログラム(21cp)」2001-2017
  - 定員26名 (学年定員2,600名のわずか1%)
  - 一般の学力試験を行わないAO入試
  - 専攻を決めない入学 (文理さえ決めない)
  - 入学後は必修は無くごくわずかの授業以外は学部を超えて自由に選択
    - この3つは米国大学のFaculty of Arts & Scienceへの入学と酷似
  - 合格すると他大学を受けられない
    - これは米国大学へのED(Early Decision) 入学に相当
- これこそ大学独自のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーによる高大接続改革の旗手 (トップランナー)であったと評価できる。
- 惜しくも廃止 (新学部 (共創学部) のAO入試へ)
  - 生まれるのが早すぎたのか. . .
  - 大学教員の有する無自覚だが強固なアカデミック・パターンリズム(Callahan, 1986)との戦いに負けたのか. . .

# 日本の入学者選抜についての課題

受験学力ではなく高大接続型学力形成と全人的発達のために

- 共通学力テストの採否もアドミッションポリシーの範囲にすること
  - 大学の主体性の尊重
- 点による選抜から線による選抜への移行
- 学力テストのための準備が高校生に与えるプレッシャーの悪影響の評価とそこからの生徒の解放
- 評価における受験学力形成準備効果の排除の努力
- 妥当性の高い全人的評価方法の開発
- 学習者集団の多様性がもつ力を発揮させるような学習者集団全体のデザインとそれにもとづく入学者選抜の研究と実施
- 大学と高校との相互の信頼の形成
- 大学と高校との間の対話的で協調的で継続的な情報交換
- そのための研究と人材育成
- 入学後のフォローアップ調査とその結果を選抜規準へのフィードバック

## 文献

- Callahan(1986) Academic Paternalism. *International Journal of Applied Philosophy*. 3(1). 21-31
- 後藤 彰寛(2005)【アメリカ大学事例】生徒の興味の度合いにあわせて大学情報を段階的に提供.*Between*
- Hiring a College Admissions Counselor—Part 1 Part 2 by Audrey Kahane
- 出光直樹(2015)アメリカの入学者選抜の本質は専門職の合議による多面的視点.*Between*
- LightHouse (2016)アメリカの大学入試制度と最新動向
- LightHouse (2016)日本とアメリカの入試制度改革
- LightHouse (2017)アメリカの大学入学審査のケーススタディー
- LightHouse (2015)ビッグデータ時代のアドミッション
- 松井 範惇(2009)アメリカの大学アドミッションとアドミッション・オフィサーの新しい課題.*大学評価・学位研究*.10
- 中田 麗子(2016)「大学での成功」を予測する?～アメリカの大学アドミッションから学ぶ.
- National Association for College Admission Counseling(2008), *Report of the Commission on the Use of Standardized Tests in Undergraduate Admission*, Arlington, VA
- 佐藤浩章(2001)アメリカの大学におけるアドミッションズ・オフィスの学生マーケティング・リクルートメント戦略.*高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—* 9
  - ネガティブな期待ギャップを抱かせない
- Why should I use a college admission counselor and what value they deliver? Ajay Singh September 18 2016
- 八重樫 陵(2015)大学入学者選抜の研究-「アドミッション・オフィサー」活用の視点から.*科研奨励研究*